

# 布団で具合の悪くなる方は いませんか？



日増しに春めてきたとはいえ、まだまだ寒さが残る毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。初春の寒暖差のある季節の中でも、カラスやオナガ、メジロなど、さまざまな鳥たちが元気に活動しています。

人と鳥との関わりは古く、肉は食料として、糞は肥料として農業に役立ち、さらに狩猟の相棒としても、人の暮らしを支えてきました。

アリストテレスや清少納言も、インコが人の言葉をまねると記していますし、大航海時代には“話す鳥”が船員たちの癒しになったともいわれています。映画で海賊の肩にオウムが乗っているのは、そのイメージの名残かもしれません。

日本でも、江戸時代の長崎では海外から多くの鳥（アフリカや南米原産のものまで）が輸入されていました。当時の絵師が描いた鳥の図譜は今でも書籍や図書館のサイトで見ることができ、その正確さには驚かされます。

さて、鳥にあまり関心がないという方でも、この季節には羽毛布団のお世話になっているかもしれません。暖かい布団にくるまれるのは幸せな時間ですね。

ところで、冬の間には羽毛布団を使うと咳が出たり、だるさを感じたりする方はいませんか？

そして、春になって布団を替えると不思議と症状が治まる——そんなことはありませんか？

実は、まれに羽毛布団が原因で「過敏性肺臓炎」という特殊な肺炎を起こすことがあります。

羽毛に含まれる鳥由来の物質に体の免疫が反応し、咳やくしゃみ、微熱、倦怠感などの症状を引き起こすのです。多くの場合は軽い症状で済みますが、まれに入院が必要になることもあります。

治療の基本は「原因から離れること」、つまり羽毛布団の使用を中止することです。症状が強い場合は、画像検査やステロイド治療が行われることもあります。放置すると肺の回復が難しくなることもあるため注意が必要です。

とはいえ、羽毛布団を使っているほとんどの方には全く問題ありません。似た症状が出る場合でも、ダニやハウスダストが原因のことも多いです。

もし思い当たる場合は、早めに呼吸器科を受診してご相談ください。

呼吸器科 佐藤 明



とうめい厚木クリニック

〒243-0034厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950